

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	令和8年2月3日（火）
氏名	内屋 純
指導教員名	林 浩之
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他         ※いずれかにチェック
学会等開催日	令和8年1月10日～令和8年1月11日
学会等名称	第24回東海北陸作業療法学会
学会等開催場所	ウインクあいち（愛知県名古屋市）
研究・講演タイトル	上腕骨遠位端骨折の重症度別における術後早期より開始する漸次静的装具療法の効果検証
発表者名（全員記載）	内屋純 <sup>1)2)</sup> 、林浩之 <sup>2)3)</sup> 、富山直輝 <sup>2)3)</sup> 、榊田臣弘 <sup>1)</sup> 、加藤彩菜 <sup>4)</sup> 、荻原響 <sup>2)4)</sup> 、棚橋宏行 <sup>5)</sup> <sup>1)</sup> 岐阜県総合医療センター中央リハビリテーション部 <sup>2)</sup> 星城大学大学院健康支援学研究科 <sup>3)</sup> 星城大学リハビリテーション学部 <sup>4)</sup> 東海記念病院リハビリテーション部 <sup>5)</sup> 岐阜県総合医療センター整形外科
研究概要 (150字程度)	上腕骨遠位端骨折患者において、術後早期より漸次静的装具を使用した際の肘関節角度の状況を後方視的に調査し、骨折の重症度別における漸次静的装具の効果を探索した。その結果、骨折の重症度に関わらず漸増的な肘関節角度の改善が得られた。また、骨折の重症度による効果に明確な差は認められなかった。
感想その他 アピール欄 (100字程度)	本発表を通じ、上腕骨遠位端骨折患者に対して術後早期から漸次静的装具を適応した場合、骨折の重症度に関わらず、拘縮予防に有用である可能性が示唆された。今回は比較対象がなく、漸次静的装具の特性か否かは確認できていない。今後は動的装具群や装具未使用群などの対照群を設け、検討する必要がある。
写真添付欄 2枚以内	なし